

角筈地区協議会 平成28年度臨時役員会 概要

平成28年9月14日（水）14:00～15:10

角筈特別出張所2階行政会議室

【出席者】役員：栗原副会長、片山副会長、鮎沢副会長、高橋会計、八木会計監査
只野理事、板本理事、矢屏顧問
オブザーバー：森委員（地域交流分科会サブリーダー）
事務局：徳永所長、関戸主査、曾山推進員

1 会長挨拶

会議に先立ち、雨宮会長が欠席のため鮎沢副会長が挨拶。

2 定足数の確認

事務局から定足数の確認。

役員定数13名に対し、出席8名、委任状3名。過半数を超えているため、この役員会は成立。

3 議事

(1) まちづくり活動支援助成金、地域協働事業助成金について

- ◆ 新宿区地区協議会連絡会の報告（3/14・6/7・8/3 開催）

※次回の連絡会、10/14 開催予定

鮎沢委員より、過去3回の連絡会において話し合われた内容と、臨時役員会が招集された経緯の説明。「現在、地域活動に対して交付されているまちづくり活動支援助成金と地域協働事業助成金は、その活動内容に似たようなものがあり、監査等から見直しを図るよう区は指摘を受けた。地区協議会連絡会では、各地区協議会が今後どのようにしたらよいのかを話し合う予定だったが、8月の連絡会では新宿区から、平成30年度からは二つの助成金を統合したいという話があった。他地区協議会では、町会と連携が取れていないとか、まちづくり活動支援助成金の執行率が悪いといった話もあるが、角筈地区は町会とも連携が取れ、まちづくり活動支援助成金も良い使われ方をしていると思う。10月14日に次の地区協議会連絡会が開催されるので、その前に役員の皆さんに伝えておきたかったことと、今後の角筈地区協議会の在り方を皆さんで考えていきたいということで本日お集まりいただいた。30年度に向けて、29年度はどのように動いたら良いか、各分科会で話していただいてよい方向に向かえたら、と思う。」

事務局から補足説明。「地区協議会連絡会とは、各地区協から会長や副会長2名計20名が出席している。10地区のうち、2地区が持ち回りで世話人として司会をする。地区協議会の情報交換の場。最近開催された3回は、地区協の今後について、二つの助成金の在り方について話し合われている。いずれもまちの活性化、課題解決のために使われる制度を統合することについて、各地区協が意見を出し合っ

ている。」

事務局から資料に基づいて説明。『第23回新宿区地区協議会連絡会会議録』は8月3日開催の議事録。また、その際の資料も添付し説明。『地区協議会の支援のあり方の検討について』では、二つの助成金の実績を報告。まちづくり活動支援助成金は予算段階(計画段階)で10地区にばらつきがあり、執行残額も10地区合計約300万円ある。見直す余地があるのでは。また、地域協働事業助成金26年度の執行残額は約67万円。この二つを合すると約400万円弱の執行残があるので、さらに有効活用できるのではというのが今回の見直しを提案している大きな理由である。また、『地区協議会の支援のあり方の検討について』(3)は21年度の監査結果とそれを踏まえたその後の動き。『地区協議会の支援のあり方の検討について』で示した助成金の執行状況や監査の指摘が今回の見直しのきっかけとなっている。『第23回新宿区地区協議会連絡会会議録』6ページの【事務局】の発言にある通り、地域コミュニティ課は10月14日の連絡会で二つの助成金に関する見直しの素案を提示する、と言っている。」

役員からは「見直す時期ではある。」等、意見が出た。

(2) 地区協議会の今後について

◆ 角筈地区協議会の今後について

役員から様々な意見が出た。

新宿区の地区協議会について

- ・地区協議会の存在意義を考える機会では。
- ・地区協議会の結成について、前区長が町会連合会に話を持っていくことなく進められた、と言う地区もあるようだ。
- ・新宿区町会連合会の会合では、地区協に予算があるなら町会にも予算があっても良いのでは、という意見の方がいた。
- ・勝手に立ち上げ、区がバックアップするのでやってくださいという感じだったのに、途中から手を引いていく様子が見えている。様々な事業は目的を持ち成果を上げているはずだが、まったく評価されず、地区協が解体となったならやらないと言いたい。

角筈地区協議会の経緯と活動について

- ・地区協議会は各特別出張所単位で結成されたが、新宿駅東口側の商店街振興組合がどこの特別出張所にも属さないため、角筈地区に組み込まれた。当初は新宿駅周辺地区協議会という名称で東口側も会合等に参加していたが、西新宿側と共通する課題が見つけられないなどから、参加しなくなった。角筈地区にはこういった経緯もあるが、現在はよくまとまり活動している。
- ・三鷹市の市民会議のようなものが成功したようで、新宿区でもということで当時の区長が新宿区民会議を立ち上げた。分科会で区の課題(環境やまちづくり等)を話し合う会でとても盛り上がった。この成功をもとに、各地域レベルでこういった課題を話し合い検討する地区ごとの区民会議である地区協議会が立ち上がった。角筈でも地域の課題を挙げ4つの分科会ができた。住んでいるマンションと町会の接点を持ちたくて参加した。10年経ち熱が冷めた。当初の計画とズレができていいるのではと考えるので、見直しも必要なのではと感じる。

まちづくり活動支援助成金と地域協働事業助成金の統合や組織の見直しについて

・所属する分科会では、計画した事業が執行できず執行残金を出したことがあるので反省している。今後補助金が縮小されるようなら、これまでのやり方や事業自体も見直したいと思う。

・情報紙やカフェが本当に地域に必要なものであれば、区が行政サービスとしてやればいい。統合するというのは、地区協が余計なことをやっているような印象があるのでは。一度きっちり見直して、必要なものは残しそうでないものは改めてやり直す。組織として機能していないということになれば止める。

・補助金の使い方の大変さ面倒さは良くわかる。事務局の支援を受けながら良い事業をやっている自負がある。見直しの本意がわからない。区は予算を縮小したいのか。

・これまでの我々の活動は評価しているのか聞きたい。一生懸命やっている。

・活動の評価は補助金の執行率でしか見ていないような気がする。実働としては、経費を安く抑えたり、雨天での中止を余儀なくされたりといったことがあるが、そこは見えていないという印象。

・ボランティアでやっているということを区はわかってほしい。

・地域コミュニティ課が実際の活動の場を見に来たということは一度もない。出したお金でどんな活動をしているかを見て、活動者に声を掛けることは励みにもなり大事だと思う。

・統合するというような大きく変革する話は、段取りや話の持っていき方が大事だと思う。連絡会に出席されている区の方からは心が感じられない。

角筈地区協議会の今後について

・今後の動きとしては、10月14日に地区協議会連絡会がある。角筈地区協の意見としては、地区協の存続を視野に入れながら見直していくということ。そのために意見を集約しながら、役員会では、具体的にどうしていくのかを話し合っていない。

・この件は各分科会のリーダーである理事から委員の方々にお話し、色々と考えていただきたい。来年度をどのように迎えるかを考えながら活動してほしい。

・もっと活動のPRをした方が良いのでは。

・二つの助成金の統合は避けられないと感じる。活動のPRをし、地域として地区協の事業と補助金の必要性をアピールしていくべきだと思う。

・つのはず友遊カフェは地域の橋渡しができるなど効果があるようだ。統合されたとして、その後の地区協活動にはシニア活動館とは違う場所でのカフェ、ボランティアのみが運営するようなカフェ等を支援するという方法もあると思う。

事務局から

区や事務局は皆さんの尽力をわかっている。地区協はもとより町会、商店街振興組合、育成会などの活動団体のみなさんは、地域のために目的を持って、区ができないような活動をされていることを理解している。

鮎沢副会長からまとめ

統合や見直しに向けての方向は変えられない状況の様だ。それならば委員の皆さんに危機意識を持っていただきたいということで臨時役員会の開催となった。今後

の役員会では随時この話が出ると思う。各分科会のリーダーである理事は、分科会の事業の見直しと展開などの方法を持って役員会に臨んでいただきたい。10月14日の連絡会を受けて、10月27日の役員会では区からの素案などの報告が出来ると思う。この報告を受けて角筈地区協議会の意見を出していきたい。

参考

【地域協働事業助成とまちづくり活動支援助成】

『地域協働事業助成』

- ・固有の活動目的を持つ団体が行う事業に対する補助金である。
- ・区内10地区それぞれの予算額は、30万円。
- ・一つの事業につき、事業経費の合計額から収入を引いた額の2分の1以内で10万円が補助額の上限である。

『まちづくり活動支援助成』

- ・地区協議会が行う事業に対する補助金である。
- ・区内10地区それぞれの予算額は、180万円である。
- ・事業経費の合計額から収入を引いた額の全額を助成する。

4 次回会議日程

(1) 次回会議日程

日 時：10月27日（木）午後1時（地区町連定例会の前）
場 所：角筈特別出張所2階行政会議室

【配布資料】

- ・第23回 新宿区地区協議会連絡会 次第一式
- ・第23回 新宿区地区協議会連絡会 会議録